

令和2年度 大森小学校 研究・研修

1. 研究主題

児童の意欲を高め、「わかった」「できた」と実感する授業作り
～ユニバーサルデザインの視点を生かした国語科「読むこと」の指導の工夫～

主題設定の理由

① 国・県の方針から

特別支援教育は、LD、ADHD、高機能自閉症も含め、障害のある児童に対して、適切な指導や必要な支援を行うものである。しかし、一人一人の教育的ニーズを把握した適切な教育的支援は、障害の有無にかかわらず、すべての児童の指導においても必要である。

文部科学省（中央教育審議会）では、「障害のある子どもが十分に教育を受けられるための合理的配慮及びその基礎となる環境整備の充実」を図る上で、「ユニバーサルデザインの考え方も考慮しつつ進めていくことが重要である」とある。

また、千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課では、「授業を実施するに当たっては、障害の有無にかかわらず、どの児童にとってもわかりやすい授業を実践するためには、ユニバーサルデザインに配慮した取り組みが望まれる」とある。

②従来の指導の成果と課題

平成30年度より、児童の学習に対する意識の向上や児童自身が「わかった」「できた」と感じることができるよう、ユニバーサルデザインを取り入れた授業の実践を行ってきた。昨年度より、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた国語科の授業作りを行い、今年度は2年目である。児童のつまずきを想定した授業を行ってきたので、どの児童も授業に意欲的に参加することができるようになった。

本校の児童は、県学力テストにおいて国語科・算数科共に県平均を下回っている学年がほとんどである。特に算数科の「考え方」の正答率が低く、他教科においても、問題の意図を読み取ることができない児童が複数いる。これは、県学力テストの国語科の「読むこと」の領域が低いことも一因であると考えられる。家庭学習については、内容や学習量に個人差が見られる傾向がある。また、授業での話し合い活動においても、思考・表現力に大きく差が生じるといった課題がある。

③本校の児童の実態

本校の児童の傾向としては、明るく素直で思いやりの心がある児童が多い。クラス変えもなく、ほとんどの学年が単学級であるので、人間関係は変わらずに高学年となっている。児童のうち、「学習や生活に困り感のある児童、特別な配慮の必要な児童」の割合は高い。また、学習活動に進んで参加し、理解させたり、習得させたりする配慮は十分であるとは言えず、すべての児童が基礎的・基本的な知識・技能を理解し、習得できる授業の展開が課題となっている。

④大森小の目指す児童の姿から

＜大森小 学校教育目標＞
「豊かな心を持ち 自ら学び たくましく生きる子ども」
＜大森小 児童像＞
思いやりの心を持ち 素直で明るい子ども
学習の楽しさを知り 自ら学ぶ子ども
自ら運動し 体をきたえ 丈夫で健康な子ども

大森小学校の目指す児童の姿は、「学習の楽しさを知り、自ら学ぶ子」である。「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れ、全ての児童に、基礎基本の理解と習得を目指している。特別な教育的ニーズが必要な児童に対しても、わかりやすいと実感できる授業作りをしていく必要があると考え、本校児童の課題である、国語科の「読むこと」について、「わかった」「できた」と児童が実感できる授業作りを目指すこととした。

2. 研究仮説

仮説 1

ユニバーサルデザインの視点（主に視覚化・焦点化）を生かした授業を展開していけば、児童が主体的に学習に取り組むことができるだろう。

〈手立て①（視覚化）〉

- ・児童の実態に即した素材を開発し、提示方法を工夫する。
- ・ホワイトボードや付箋、ノートを活用し、板書の工夫を図る。（思考の可視化）

〈手立て②（焦点化）〉

- ・単元のゴールを明確にする。
- ・目的にあった思考ツールを選択し、活用する。
- ・発問や問い返しの工夫をする。

仮説 2

進んで考えたり話し合ったりして、学び合いの場（共有化）を工夫していけば、読みを深めることができるだろう。

〈手立て③（共有化）〉

- ・話し合いのルールを明確にする。
- ・ペア、グループでの話し合いを積極的に取り入れる。
- ・ホワイトボード、ICTを活用する。
- ・発表や発言等を板書やホワイトボードに表現し、思考の可視化を図る。

3. 検証計画

観点	視点	方法
知識・技能	・基礎学力の向上 ・既習事項の理解 ・自力解決時の行動 ・練習問題でのチェック	学力テスト ノート ノート
思考力・判断力・表現力	・表現方法の工夫 ・話し合いへの参加	ノート 授業観察
学びに向かう力・人間性	・アンケート（児童） ・UDの視点を生かした授業	児童の意識調査 ノートへの感想 チェックリスト

4. 研究の内容と方法

（1）理論研究

- 先行文献や実践校の資料を活用し、研究教科における効果的な指導方法の研究を行う。
- 国語科における「読むこと」の研究を行う。

（2）実践研究

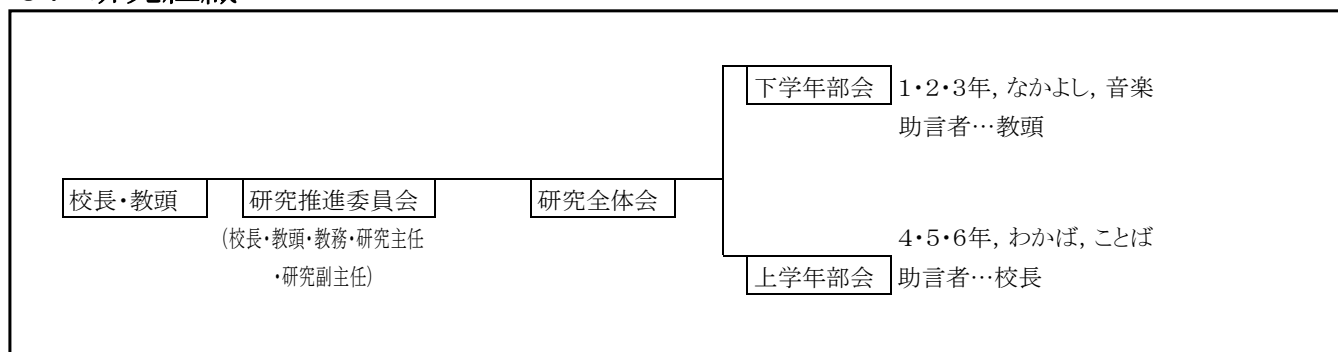
- 児童のつまずきを想定して、授業計画を立てる。
- 児童に学習習慣が身につくよう実践する。
- 授業改善を図るため、問題提示や話し合いの仕方などについて工夫する。

○「ユニバーサルデザインの視点を生かした授業」の構築を図る。

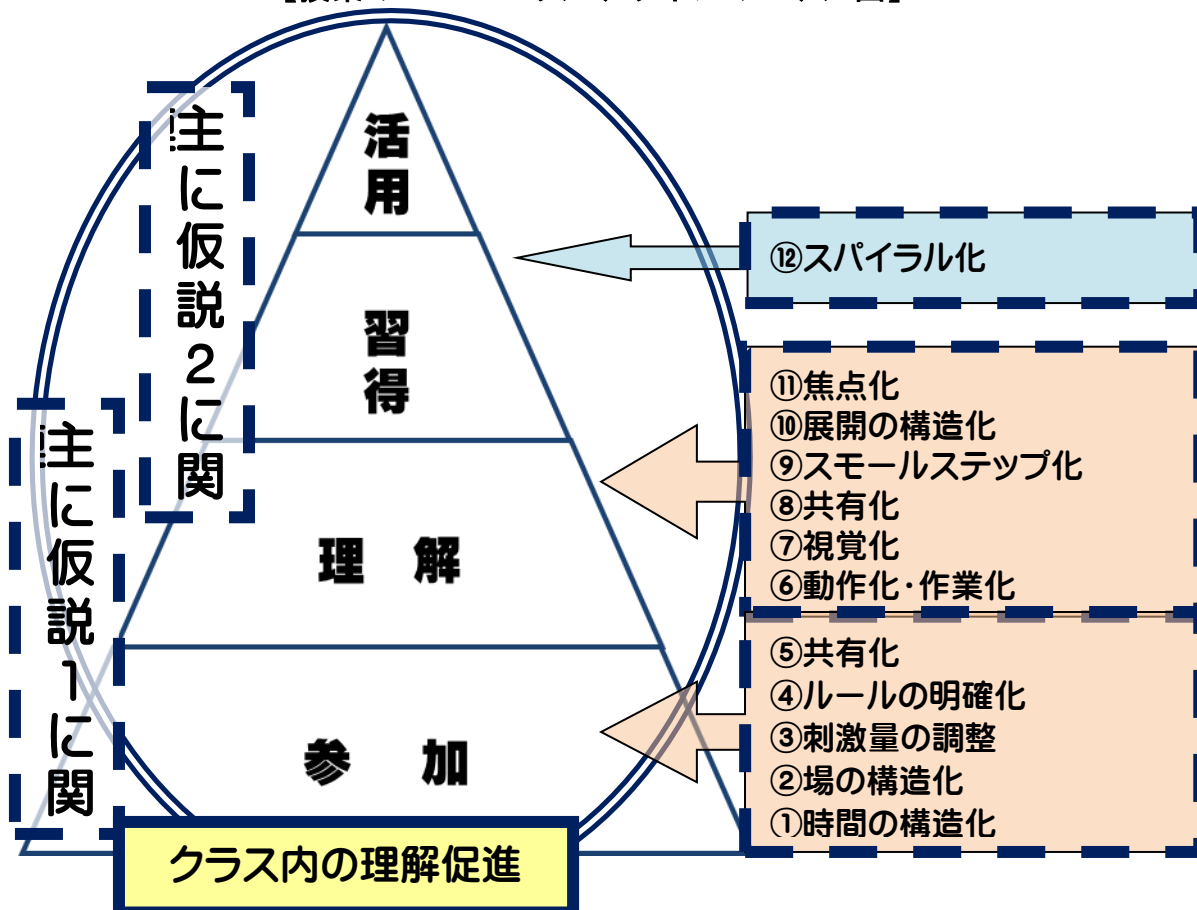
目指す児童の姿

	低学年	中学年	高学年
文学的な文章	・場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。	・登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉えることができる。	・登場人物の相互関係や心情などについて描写を捉えることができる。
説明的な文章	・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。	・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述をもとに捉えることができる。	・事実と感想、意見などとの関係を叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。

5. 研究組織



【授業のユニバーサルデザインのモデル図】



6. 研修・研究計画

令和2年6月

○校内研修 ◎講師招聘研修 ※その他会議

月	日(曜)	研 修・研 究 内 容	研 修 方 法	備 考
6	1 1 (木) 1 8 (木) 2 5 (木)	○学校再開にあたっての検討・共通理解 ○徴収金・電話マナー等研修・教育課程研修 ※職員会議	全体研修 個人研修 全体研修	
7	2 (木) 9 (木) 1 6 (木) 3 0 (木)	○校内研究について ○授業研究会の該当日・単元検討 ○モラールアップ研修会② ※職員会議 ○運動会についての話し合い ○個別面談準備	全体研修 全体研修 全体研修 個人研修	
8	7 (金) 2 7 (木)	○人権研修会 ○プログラミング教育	全体研修 実技講習	終業式
9	3 (木) 1 0 (木) 1 7 (木) 2 4 (木)	○モラールアップ研修会③ ※就学指導委員会 ○第1回校内授業研指導案検討① ※職員会議	全体研修 部会研修	
10	1 (木) 8 (木) 1 5 (木) 2 2 (木) 2 8 (水)	○成績処理(補助簿提出1～4年) ○通知表準備・確認 ○第1回校内授業研指導案検討② ※職員会議 ◎第1回校内授業研究会	個人研修 個人研修 部会研修	1・2年校外学習
11	5 (木) 1 1 (水) 1 2 (木) 1 9 (木) 2 6 (木)	○第2回校内授業研指導案検討①(+道德) ※市教研・小学校授業研修会 ○第2回校内授業研指導案検討②(+道德) ○第3回校内授業研指導案検討① ※職員会議	部会研修 部会研修 部会研修	修学旅行
12	3 (木) 4 (金) 1 0 (木) 1 7 (木)	◎校内道德授業研究会(海野T) ◎書き初め練習会(藤代先生) ◎第2回校内授業研究会 ※職員会議	全体研修 児童対象 全体研修	書き初め練習会
1	7 (木) 1 4 (木) 2 1 (木) 2 8 (木)	○第3回校内授業研指導案検討② ○(校内書き初め展掲示・審査) ※職員会議 ○全体研修(今年度の成果と課題)	部会研修 全体研修 全体研修 全体研修	
2	4 (木) 1 1 (木) 1 5 (月) 1 8 (木) 2 5 (木)	◎第3回校内授業研究会 建国記念の日 ○研究推進会議&部会研修(研究のまとめ) ・学力検査採点(国・算のみ) ・感謝の会前日準備	部会研修 部会研修	学力テスト
3	4 (木) 1 1 (木) 1 8 (木)	・成績処理 ・補助簿提出 ・学年末事務処理		卒業式